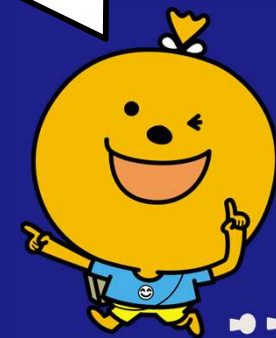


# 令和5年度 保健医療局運営方針

～誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる  
「健康福祉のまちづくり」の実現 をめざして ～

福岡市健康づくり  
イメージキャラクター  
**よかろーもん**





## 今年度の重点取組み

### 1 健康危機管理体制の強化

- 健康危機管理体制の強化
- 福岡市民病院のあり方の検討

### 2 予防・健康づくり、福岡100の推進

- ポストコロナに向けた健康づくりの推進
- ストップ！CKD（慢性腎臓病の重症化を防ぎ人工透析を予防）
- 女性・若者の自殺予防対策の強化 等

### 3 生活衛生の確保

- 飼い主のいない猫等の不妊去勢手術の推進
- 犬猫の預かりボランティア制度による譲渡の推進



## 健康危機管理体制の強化

新設した感染症対策部において、今後の新興感染症の流行に備え、改正感染症法に基づく予防計画の策定など感染症の危機管理体制の強化に取り組む

### 新興感染症等を想定した計画やマニュアルの改訂

新型コロナウイルス感染症対応を振り返り、新興感染症などによる集団的健康被害発生に備えて、計画やマニュアルを整備

### 防疫資材の備蓄・訓練の実施

抗インフルエンザ薬や防疫資材の備蓄等を行うとともに、感染症指定医療機関など関係機関との連携を図り、訓練を実施



## 福岡市民病院のあり方の検討

### 求められる役割・機能の検討

- 求められる「役割」の検討
- 役割を果たすために必要な「機能」の検討

### 運営や施設のあり方の検討

- 役割・機能の検討を踏まえた、その運営や施設のあり方について検討





## ポストコロナに向けた健康づくりの推進

### <コロナ下で生じた健康課題>

新型コロナ前より「できなくなった」生活習慣(生活習慣が変わった人)



一般社団法人 日本生活習慣病予防協会  
「インターネット調査」(2021年10月施行)より作成



運動不足による肥満  
筋力や免疫力の低下

コミュニケーション不足  
によるストレス・うつ



睡眠不足



過食・酒量増加  
など



### ☆ポストコロナに向けた健康づくりナビ

コロナ下で生じた健康課題や健康づくりのポイントなどの情報を、SNSなど様々なツールを活用してわかりやすく発信

●健康無関心層にも届く

アウトリーチ型発信

エビデンスやナッジの活用



## 女性特有の健康問題に着目した健康づくりの推進

### <女性の健康づくりに関するエビデンス>

- 女性は、平均寿命と健康寿命の差である「日常生活に制限のある期間」が**男性よりも3.99年長い**(男性9.66年、女性13.65年)
- 女性が要介護状態となった原因は**ロコモティブシンドローム関連疾患が第1位**  
⇒ できるだけ若い頃から、運動・栄養・休養などの基本的な生活習慣をつけることが必要



女性は男性と比べて筋肉量・骨量が少ないことや閉経による女性ホルモン減少などの影響もあり、骨粗しょう症になりやすく、ロコモティブシンドローム(運動器症候群)により要介護状態になる割合が高いことを踏まえ、運動習慣定着に向けた取組みを実施

### ◆日常生活の中で取り組める運動動画の周知・啓発



### ◆ロコモ予防に向けたヨガなどの運動習慣のきっかけづくり





## オーラルケア28プロジェクト

### <口腔と全身の健康との関連>

- 口腔機能の低下により、フレイル、総死亡の発症リスクがそれぞれ**2.4倍、2.1倍**に上昇
- 咀嚼力低下で要介護リスクが**1.5倍**上昇
- 歯が少なく、入れ歯未使用の方は、認知症発生リスクが**1.9倍**上昇
- 歯周病は、糖尿病や心臓血管疾患、呼吸器疾患などに関連



### 産学官の資源を活かし、オール福岡で歯科口腔保健を推進

治療よりも予防に重点をおいた、エビデンスに基づく全世代の歯と口腔の健康を守るプロジェクトを実施

#### ☆子どもが集まる場でのオーラルケア



こども食堂や放課後児童クラブに歯科専門職を派遣し、歯磨き指導やオーラルケアグッズを配布することで、子どもの虫歯予防意識を醸成

#### ☆フッ素うがい導入支援

フッ素うがいの導入を希望する保育園・幼稚園等に対し、施設・保護者向けの説明会や薬剤の支給による支援を実施

- 学齢期向け
  - ・ポケモンスマイルではみがき大作戦
- 成人期向け
  - ・デンタルチェック18～20
  - ・産婦歯科健診
- 高齢期向け
  - ・高齢者施設職員向けの動画配信等による口腔ケアの実践拡大

## Fitness City プロジェクト

### <市民の健康寿命の延伸に関するエビデンス>

- 健康寿命延伸の阻害要因の上位は、「**身体活動量不足**（≒運動不足）」と「**適正でないBMI**」  
仕事や育児等で忙しい**30～50代の現役世代**に顕著
- 歩幅が狭い人は広い人に比べて、**認知機能低下のリスクが3倍以上**
- 歩幅が狭い状態のまま年齢を重ねると**認知症発症のリスクが2倍以上**



### 自然と楽しく体を動かしたくなる仕組みや仕掛けがある 「住むだけで健康になるまちづくり」

30～50代の現役世代をターゲットに、オフィスワーカーが集まる博多駅周辺をパイロットエリアとし、道路や駅など身近な環境を活用した、自然と楽しく体を動かしたくなる仕掛けづくりに取り組む

#### ◆歩行を促す仕掛けの試行

#### ◆民間事業者等の取組みを誘発する仕組みの検討





## チャレンジ・ダイエット（コロナ太りを解消して、生活習慣病の早期予防・改善）

生活習慣病を予防するため、生活習慣病のリスクが高い肥満者へ、生活習慣改善指導を個別で実施

### 生活習慣改善プログラムの実施 （定員拡充：100名⇒200名）

よかドック※受診者のうち、BMI25以上の方に、フィットネス施設において、対象者に合わせた運動・食生活改善の個別支援プログラムを約3カ月間実施

※福岡市国民健康保険の特定健診



### <エビデンス>

肥満の人は、肥満でない人と比較として、高血圧の発症リスクが**1.5~2倍**、糖尿病の発症リスクが**3倍**高い

運動の習慣化と肥満の改善

↓  
生活習慣病の予防・改善



## ストップ！CKD（慢性腎臓病の重症化を防ぎ人工透析を予防）

医療保険者や医療関係者と連携して、全ての市民を対象に、CKD（慢性腎臓病）重症化予防の仕組みを構築

### 保険者・医療関係者の連携体制構築

健診や受診勧奨、保健指導を行う医療保険者と、治療等を担う医療関係者が連携して仕組みを構築するため、「連携推進会議」を設置



### CKD重症化予防の仕組みを段階的に構築

啓発	対象にあった効果的メッセージで啓発	
医療連携	かかりつけ医と専門医の連携強化	
通院継続支援	外来看護師等が患者の通院継続を支援	
栄養指導	かかりつけ医療機関等で栄養指導を実施	

い元て気ねで

### CKDとは…

- ・腎障害や腎機能低下が持続する「慢性腎臓病」のこと
- ・日本の成人の約**8人に1人がCKD**
- ・自覚症状がほとんどないまま経過
- ・進行すると、末期腎不全となり人工透析等が必要に、また心筋梗塞や脳卒中、心不全などに至るリスクも高い



## 女性・若者の自殺予防対策の強化

各関係機関・団体が緊密な連携を図りながら、自殺対策を総合的かつ効果的に推進

### 女性を対象とした取組みの拡充

- ・女性を対象とした「うつ予防教室」を各区健康課で新たに実施
- ・各種教室開催時にうつ病予防やその対処法等について普及啓発を実施

### 若者のゲートキーパーの支援

市内の大学等において、若者自身のメンタルヘルスやセルフケア、ゲートキーパーについて学ぶ研修を対面およびSNSを活用した動画配信により実施

### 自殺対策総合計画の改定

自殺対策を総合的かつ効果的に推進するための基本方針を掲げ、各関係機関の自殺対策の推進についての具体的な行動計画である「福岡市自殺対策総合計画」について、令和4年10月に見直された国の自殺総合対策大綱等を踏まえ改定

#### <自殺者数の推移>

	R元	R2	R3
自殺者数(人)	220	256	277
男性	145	166	165
女性	75	90	112
～19歳	7	6	13
20～29歳	24	46	41

人口動態統計



## 子ども医療費助成制度

### 子ども医療費の助成対象を高校生世代まで拡大 (令和6年1月～)

すべての子どもたちが家庭環境に左右されず、切れ目なく安心して医療を受けられるよう、保険診療にかかる医療費の自己負担相当額の助成を実施(助成対象を高校生世代まで拡大)

※高校生世代…18歳の誕生日前日以後の最初の3月31日まで



#### 現行制度

	1月あたりの自己負担上限額	
	入院	通院
3歳未満	自己負担額なし	自己負担額なし
3歳以上中学生		月500円まで
高校生世代	助成なし	助成なし

#### 令和6年1月から

	1月あたりの自己負担上限額	
	入院	通院
3歳未満	自己負担額なし	自己負担額なし
3歳以上中学生		月500円まで
高校生世代	自己負担額なし	月500円まで



## 飼い主のいない猫等の不妊去勢手術の推進

### 野良猫及び多頭飼育の猫の不妊去勢手術支援の試行的実施

野良猫の繁殖や社会問題となっている多頭飼育崩壊を抑制することで、猫の収容を減らし、ひいては殺処分の削減を図る

#### ● 飼い主のいない猫等の不妊去勢手術推進協議会 により事業を実施・検証

〈構成〉

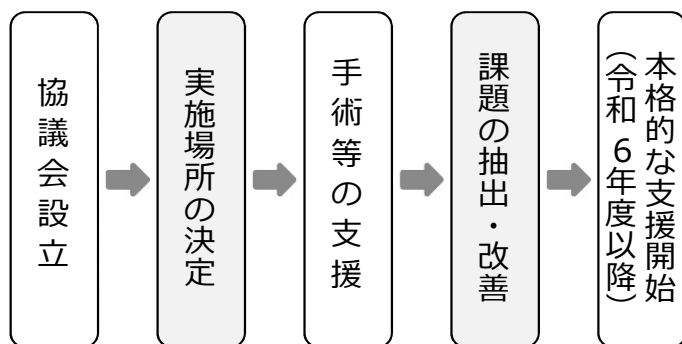
市、動物関係団体、獣医師会

〈実施内容〉

- ・相談対応
- ・実施場所の選定
- ・不妊去勢手術の支援
- ・猫の捕獲・運搬等のサポート



#### ● モデル事業のフロー



## 犬猫の預かりボランティア制度による譲渡の推進

### 収容犬猫の殺処分を削減するため、 市民ボランティアとの共働による犬猫の譲渡を推進

譲渡候補犬猫を登録ボランティアに一定期間預けることで、人への警戒心をなくし、譲渡につなげる

預かり期間中の応急処置が動物病院で受けられるようにすることで、ボランティアの負担や不安を軽減

